

N 中央労福協ニュース NEWS LETTER

労働者福祉中央協議会（中央労福協）

発行人 南部 美智代

No. 168

〒101-0052

東京都千代田区神田小川町3-8 中北ビル5F

Tel 03-3259-1287 URL <https://www.rofuku.net>

2020 全国研究集会

いつでも、だれでも、どこでも 視聴可能！

9月1日 YouTube で公開スタート！



時代に調和する新しい“つながり”のカタチ ～ コロナ禍・大規模災害を乗り越える地域コミュニティ ～

特設サイトから視聴できます！

視聴後は「1分間 Web アンケート」にご協力をお願いします！

https://www.rofuku.net/research_competition2020/

中央労福協

検索

中央労福協は9月1日、YouTubeで動画「時代に調和する新しい“つながり”のカタチ～コロナ禍・大規模災害を乗り越える地域コミュニティ～」を公開した。新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて参加者を集めての開催が困難となった「2020年度全国研究集会」について、ゲストの活動報告やパネルディスカッションの様子を動画番組として収録・編集した、中央労福協にとって初の試みである。8月21日には先行して予告編を公開している。

動画はYouTubeで広く公開されているため、事前登録不要、参加無料で、PC、スマートフォン・タブレット端末などから組織内外に関わらず「だれでも」「いつでも」「どこでも」視聴することができる。中央労福協ウェブサイト上には特設ウェブページをオープンし、本編、予告編をそれぞれ視聴できるほか、視聴者の声を寄せる場として1分間程度の簡単なオンラインアンケートを設置している。



8月21日には予告編を公開しました！

No.168 Topics

- 2面 2020年度全国研究集会
- 3面 2020年度ブロック会長・事務局長会議
- 3面 第2回労働組合会議
- 4面 こくみん共済coop第132回通常総会
- 4面 連載 58 鷲尾悦也と佐高信と盗聴法（通信傍受法）

ポストコロナ # 自然災害 # 震災 # 豪雨



久隆浩教授による基調報告の収録の様子=7月18日、京都府

2020 年に入り、新型コロナウイルス感染症が全世界的に猛威を振るっている。我が国においても経済、雇用、暮らしは深刻な影響を受け、さらに私たちは「人と人との対面が難しい」という経験したことのない状況に置かれている。また、近年では毎年のように全国各地で地震、豪雨、台風などの大規模災害が発生し、生活や雇用はたちまち破壊され、甚大な被害が生じている。



ナレーション収録の様子=8月15日、東京都

こうした時勢の中で「つながり・たすけあい・ささえあい」が今、改めてクローズアップされている。非常事態の中で、或いはその手前の「日常」の段階で、これからの地域コミュニティや人と人とのつながりはどうあるべきか、ただコロナ禍以前の世界に逆戻りする「元通り」ではなく、変わりゆく時代と社会に調和する「新しい“つながり”のカタチ」を、ポストコロナ時代を見据えながら考察する。

ゲストには、近畿大学総合社会学部（環境・まちづくり専攻）の久隆浩教授、虹のサポートセンターで専任相談員を務める川端典子さん、一般社団法人明石コミュニティ創造協会常務理事兼事務局長の柏木登起さんをお招きし、それぞれの取り組みについて報告を頂いたのち、中央労福協の南部美智代事務局長を交えてパネルディスカッションを行った。今回の YouTube 番組はこの報告、パネルディスカッションの様子を収録、編集し、広く一般の方も視聴できる形で公開した。



神津会長の収録の様子=7月30日、東京都

公開当日、滋賀県労福協ではグループで視聴

滋賀県労福協では 9 月 1 日（火）に地区代表者会議が開催され、議事に入る前段に出席者全員（20 名）で「2020 年度全国研究集会」の映像を視聴した。視聴後は各自のスマートフォン等を用いて「1分間 Web アンケート」にご協力頂いた。

各エリアにおいても会議や研修会を利用し、参加者全員で視聴するなどの工夫をお願いしたい。



会議出席者全員で視聴する様子=9月1日、滋賀県

ポストコロナ社会を見据えた運動展開を 2020 年度ブロック会長・事務局長会議 開催

8 月 19 日、中央労福協は Web 会議サービスを利用し同会議を開催した。神津里季生会長が座長を務め、全国 5 ブロックの会長・事務局長および中央労福協事務局の計 14 名が出席した。

生活・就労応援基金（ろうふくエール基金）、2020 全国福祉強化キャンペーン、2020 年度奨学金に関する全国一斉相談について、各労福協での進捗状況やブロック内で寄せられている意見等の情報共有を行った。また、この間のコロナ禍の影響を加味した 2020 ～ 2021 年度活動方針の見直し補強案について、さらに大局的な観点から“ポストコロナ社会における労働者福祉運動のあり方”についての意見交換を行った。「地域で活躍する NPO 団体等との連携がますます重要になってくる。それぞれの団体を繋ぐコーディネート機能の発揮やスケールメリットを活かした資金協力など、労福協が果たすべき役割は多いので



実際の会議中の Zoom 画面＝8 月 19 日、東京都

はないか」「リモート会議の促進などによる財政の有効活用、若い世代の参画など労働者福祉運動も新しい形に切り替わるチャンスではないか」など、中身の濃い議論が交わされた。

コロナ禍

2020 年度第 2 回労働組合会議を開催 直面する危機を乗り越える「支え合い・助け合い」と、 中長期を見据えた政策面の実現に向けて

中央労福協は 8 月 27 日、Web 形式にて第 2 回労働組合会議を開催、加盟労働団体から 30 名が出席した。冒頭、座長を務める伊藤副会長（フード連合会長）より、「立場の弱い人を助けるには、公助だけでなく、共助の取り組みが求められる。こうした時こそ、組織間相互で情報交換と意思疎通を図り、組合員や地域の生活者のお役に立てる運動を展開しよう」と呼びかけた。

また、神津会長は、「コロナ禍が長引くことは不可避。直面する危機を乗り越える支え合いと助け合い、そして中長期の視点で政策面の対応に踏み込む必要がある。ニューノーマル（新しい常識・状況）だからこそ、新しい‘気づき’で政策を実現していかなければならない」とメッセージを送った。

本会議では、「生活・就労応援（ろうふくエール基金）」「2020 全国福祉強化キャンペーンの取り組み」「2020 全国



挨拶する伊藤副会長＝8 月 27 日、東京都

研究集会（Web 形式）の開催」について意見交換を行い、取組内容の共有化と意思統一を図った。

こくみん共済 coop <全労済>より 第132回通常総会を開催

こくみん共済 coop（全国労働者共済生活協同組合連合会 代表理事理事長：廣田 政巳）は、2020年8月25日（火）に『第132回通常総会』を開催しました。今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、出席者を縮小して実施しました。総会では、2019年度計画経過報告および2020年度計画設定などの諸議案を採択し決定しました。また、SDGs 行動宣言を発表しました。



議長団 職域事業本部域・森林労連共済 水田 勇司 代議員（左）
関東統括本部域・群馬県労生協 吉田 登 代議員（右）



挨拶をする 廣田 政巳 理事長



事業概況報告および SDGs 行動宣言をする 崎田 弘 専務理事

連載 58

二〇二〇年八月

鷺尾悦也と佐高信と盗聴法（通信傍受法）

鷺尾悦也は連合の三代目会長で全労済、全労済協会の理事長も務めた人。佐高信氏は辛口の人物評で知られた人である。

一九九九年八月三日、盗聴法の国会審議の大詰め段階で、二人が実行委員になった「とめろ！盗聴法まもれ！市民のプライバシー緊急大集会」が日比谷野外音楽堂で開催された。連合加盟組合だけではなく、普段なら同席しない様々な潮流の労働組合や市民団体五千人以上が参加し、立錐の余地もないほどの集会になった。「通信の秘密は侵してはならない」という憲法第21条の精神を反故にするものだ、当時、情報労連はじめいくつかの労働組合が反対の見解をまとめていたものの、連合あげての反対集会を開催するまでになっただけだったのだが、リベラルな鷺尾は忸怩たる思いでいたと思われる。佐高の呼びかけに応じたのである。

前年十二月、佐高はある雑誌で鷺尾を「ふやけたタヌキ」ときき下ろしていたので、その妙な取り合わせの二人が呼びかけ人の集会準備を任せられた筆者は面食らってしまった。さらに驚いたことがある。集会アピールのために前日、国会内で行った記者会見での出来事だった。都合がつかない鷺尾の代

わりに佐高の横に座らされたのだが、記者からは容赦ない質問が飛んでくる。「あれだけ悪く言っていた鷺尾さんとなぜ一緒にやるのですか」。佐高はしゃあしゃあと「私は、目的達成のためには悪魔とでも手を結んで闘います」。対ドイツ戦でソ連のスターリンと手を結んだ英国のチャーチルが述べたといわれる言葉の引用だ。さすがに筆者が腕をつくと、すかさず「もとい！あくまでも闘います」と。一同爆笑でその場は収まった。当意即妙の対応に、論敵ともすぐ打ち解けることのできる佐高の人間性を垣間見たものだ。

結局、法案成立は阻止できなかったのだが、一か月後の反省会で、二人がうどんを食べながら、実に親しく談笑しているのを見て、鷺尾の感性と懐の深さにも感じ入ったものだった。

最近、佐高に会う機会があったので、おぼろげと聞いてみた。「佐高さん覚えておられますか」「もちろん、よく覚えていますよ。鷺尾はなかなか大した男だった」「えっ、あれだけ悪口を書いていたのに」「それ以降に比べるとうんと良くなった。20年経っても辛口の論評は全く衰えていなかった。（高橋均）